

肝細胞癌における亜鉛トランスポーター発現動態の検討

1. 研究の対象

2010 年から 2020 年 5 月 13 日間に肝臓の手術または肝生検を受け、病理検査で肝細胞癌と診断された方

2. 研究目的・方法

【目的】

肝癌組織および非癌部組織における亜鉛トランスポーター (ZnT1) 発現動態を検討することにより、肝発癌およびその臨床経過における亜鉛の意義を明らかにすること。

【方法】

肝細胞癌は、世界において 5 番目に多い癌であり、公衆衛生における重要な疾患の一つです。近年、亜鉛という栄養素が、慢性肝疾患における肝機能に重要な働きをしていることが分かってきており、肝発癌への関与も示唆されています。この亜鉛は体の中のトランスポーターという物質によって制御されていることがわかっていますが、癌との関りについては、あまりよくわかっていません。そこで、以前よりこのトランスポーターの研究を行っている京都大学の神戸准教授が、最近開発された抗体を用いて、肝癌と亜鉛との関連を検討することにしました。過去に外科的に切除された、もしくは生検にて得られた肝癌組織と非癌部組織を京都大学大学院生命科学研究科の神戸准教授の研究室において、ZnT1 というたんぱく質が、それぞれの部分にあるかないかを、免疫組織化学法、もしくはウエスタンブロット法という方法で検討します。

【期間】施設承認～ 2026 年 3 月 31 日 (□ 延長の可能性あり)

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：外科的に切除された、もしくは生検で得られた肝細胞癌の組織

情報：病歴、カルテ番号、画像 等

4. 外部への試料・情報の提供

研究対象者の試料・情報は匿名化 (氏名等、個人を特定できる情報を削除し、代わりに関連のない研究独自の記号・番号を付け) して対応表を作成します。対応表は、当院の研究責任者が院内で厳重に保管・管理します。蛋白発現の検討やデータ解析を行う京都大学の研究室への試料・データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で梱包して郵送および、電子媒体 (USB や CD-ROM 等) に記録して郵送するか、電子ファイルのメール添付にて行います。

5. 研究組織

(研究責任者)

市立貝塚病院 総長 片山 和宏

(研究分担者 [情報提供施設])

京都大学大学院生命科学研究科 准教授 神戸 大朋

大阪国際がんセンター 肝胆道外科長 和田 浩志

大阪国際がんセンター 病理・細胞診断科 部長 本間 圭一郎

市立貝塚病院 副院長 山田 幸則

市立貝塚病院 消化器外科 部長 金 鏞国

市立貝塚病院 消化器内科 部長 垣田 成庸

市立貝塚病院 病理診断科 部長 山崎 大

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 消化器外科 和田 浩志

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者： 大阪国際がんセンター 消化器外科 和田 浩志

研究代表者： 市立貝塚病院 総長 片山 和宏

-----以上